

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 2 No 4

11号

平成6年 4月 1日

健康保健法の改訂について

川村 和久

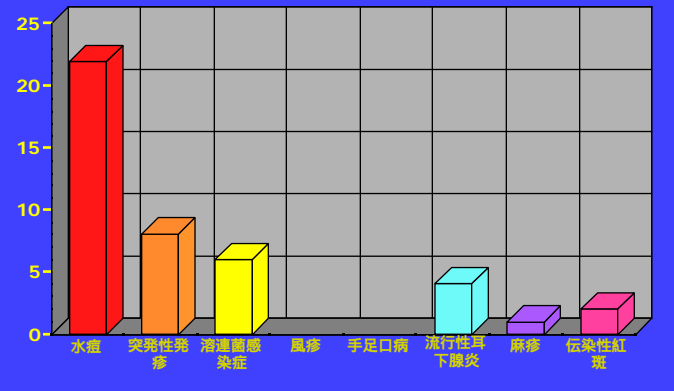
4月1日から健康保健法の改訂に伴い、窓口で支払う一部負担金が変わることを、ご存じの方も多はずです。今回の改訂はかなり大がかりのもので、広い範囲に渡り見直されています。全体の引き上げ幅は、全体で2.7%程度になっています。もちろん医科、歯科や薬局の平均であり、各科によって幅は変わります。

当院の様に院外処方をしている場合は、薬の金額（薬価）の影響を受けないため、窓口の一部負担金はほぼ一定です。ちなみに今までと今回の比較をしてみますと、6才以上の初診で薬をもらった場合では、850円から890円、2才以下では1300円から1430円の負担増となります。増加率は5~10%ですが、薬価が引き下げられたため、負担はもう少し少なくなるはずですが、現在は出生率が低下し、赤ちゃんの数が減少しています。将来的には、若者の負担が増えることとなります。今の時期子供を大切にするという意識が必要です。そのことが、小児科の引き上げに反映されているかもしれません。

今回の改訂は、当方からみても充分納得いくものではなく、まして10月に予定されている入院給食費の負担等を考えれば、問題の多い改訂と考えざるを得ません。しかし個人的にどうなる問題でもなく、患者さんには窓口会計の負担増となりますが、どうぞ御理解をお願い致します。

財政上上の問題もあり、患者負担の増加は止むを得ないところもありますが、次世代を担う子供たちが安心して負担が軽く、質の良い医療を受けられる環境造りを、目指していく必要があります。

3月の感染症の集計



某幼稚園で水痘が流行したため、20人以上となりましたが、現在は余りみられなくなりました。おたふくは、やや少なくなりましたが、時々みられています。麻疹が、今年はまだ1人みられました。溶連菌感染症、突発性発疹は減少傾向です。

スタッフから一言

先月号にも書きましたように、3月末より、新しいスタッフが増えました。新しい年度を迎え、スタッフ一同、意識を新たに、頑張るつもりです。

はじめまして、今度、このかわむらこどもクリニックで働くことになった、矢作（ヤハギ）です。矢作という名前は、こちらでは珍しいそうなのでぜひ覚えてくださいね。

今まで、医療関係の仕事につきたいと思い一生懸命、勉強してきました。そして、このかわむらこどもクリニックに就職できて、充分に自分の能力を発揮できると思います。今はまだ、不安がとても大きいですが、いろんな事を沢山吸収して、いい先生、いい先輩の見守るなかで、四苦八苦しながら精一杯頑張りたいと思いますので、これからどうぞよろしくお願致します
矢作 美記

4月のお知らせ

栄養育児相談

6、20日（水）
栄養士担当、
参加無料
参加希望の方は受け付けまで。

診療時間変更

のお知らせ
4月12日（火）
ポリオ予防接種のため
14:00~15:00
まで不在です。受ける方、
保健所で会いましょう。



ポリオ予防接種のお知らせ

もう1度掲載します。今月ポリオの予防接種があります。該当する赤ちゃんは、忘れずに受けるようにしましょう。対象者は次のとおりです。
1回目 平成5年7月1日から12月31日生まれの児
2回目 平成5年11月に1回目の投与を受けた児
その他 投与を受けていない生後48ヶ月までの児
投与場所は右の表のとおりです。その他の実施区域および不明な点は受付で問い合わせください。
12日の青葉保健所は、院長が問診をします。会場でお会いしましょう。

保健所別	実施月日	曜日	実施区域	会場
青葉保健所	4月 8日	金	上杉	青葉保健所
	12日	火	小松島、中江	青葉保健所
	19日	火	旭ヶ丘	青葉保健所
	20日	水	東六、台原	青葉区役所
宮城野保健所	19日	火	東仙台	宮城野区役所
	20日	水	鶴ヶ谷	鶴ヶ谷市民センター
	21日	木	栢江、幸町	宮城野区役所
泉保健所	14日	木	南光台	泉区役所

医学マメ知識

お薬について 1

その11

今回は、小児科の治療と切っても切り離せないお薬について考えてみましょう。

初めての薬ですが、

どう飲ませればいいのでしょうか

乳児期には、シロップで出します。初めての場合はシロップが多いわけですが、ミルクを飲んでいる場合は、ゴムの乳首をくわえさせ、そこにシロップを流せば簡単です。哺乳瓶を使っていない場合は、スプーンであげてください。

粉と、シロップが分けて出されますが、

一緒にならないのでしょうか

当院では、抗生物質を出す場合は、シロップとは別に処方しています。その理由は、抗生物質を他のシロップに混ぜると、保存により効果が落ちる場合があるからです。抗生剤の殆どはドライシロップの形をとっていますので、溶かすとシロップになります。もちろん飲ませるときにシロップに溶かすことは、全く問題ありません。

薬を飲まないのですが、

何かに混ぜていいのでしょうか

これもお母さん方から良く聞かれることの一つです。当然のことですが、薬は飲まなければ効果がありません。半分しか飲まなければ半分の効果、1回抜けてしまえば効果が低下します。飲ませることが目的ですから、原則としては、何に混ぜても構いません。（混ぜてはいけない薬がありますが、そのときはこちらまたは薬局で指示します）。どうしても飲みにくい粉薬では、ふりかけと一緒にご飯にかけて食べさせているお母さんもいます。何とか工夫をして、決まった量を決まった回数だけ飲ませるようにしましょう。

粉薬のうまい飲ませ方を教えてください

お薬の種類によっては粉薬しかないことがあります。粉薬は、少しの水で練るように溶いて、赤ちゃんの上顎やほっぺたの内側に塗り付け、ミルク等を飲ませると上手に飲める事が多いようです。また最初の頃よく飲んでたシロップも、ある時期から飲まなくなることがあります。そんな時にも粉薬を試してみるのもよいでしょう。

錠剤しか飲めないのですが、

何才ぐらいから可能ですか

普通は、子供用の錠剤はないと考えてください。大人の薬の量（薬用量）の半分が、小学校低学年です。つまり大人が2錠飲む薬を1錠使えるのが、その年齢というわけです。薬の量が調節できないため、錠剤が安全に使えるのは、小学校からと考えてください。当然小さい子に無理に使用すれば、副作用が出やすくなり、場合によっては危険なことも起り得ます。

市販薬と病院のお薬は、

どちらが効果があるのでしょうか

これはなかなか難しい問題で、一概にはいえません。市販薬の投与量は、年齢のみを基準にして決められています。同じ年齢でも背の大きい子や太っている子もいるはずですが、そのことは考慮されていません。もちろん薬局で、いちいち体重を計り投与量を決める事は不可能です。また十分な説明がない場合もあり、勝手に服用されることもあるため、安全性を考えてお薬の有効成分を少なめにしていることが殆どです。そんな理由から、病院の薬のほうが効果が大きいと考えてください。テレビのコマーシャルは大変うまく作られていて、何々効果とか何々ブロックとか表現されていかにも聞きそうですが、当然病院のお薬にはそのようなものはすべて含まれているわけです。

お薬を長期間、

出してもらえないのでしょうか

これも、よくお母さんたちから聞かれることです。お母さんたちも何かと忙しいし、特に小学校にもなるとこどもは病院へ行きたがりません。もちろん気持ちとしては長く出してあげたいのですが、なかなかそうも出来ません。大人と違い、子供の病気の殆どは急性の病気です。つまり良くなるのも早ければ悪くなるのも早いのが特徴です。次ぎに来た時に重くなっては困ります。でもそんな経験をしたお母さんも多いはずですが、どうしても薬を飲んでいるという安心感からでしょうか、熱が続く、咳や下痢がひどくなくても、薬の有るうちは来院しないことも多いようです。先日ご連絡で、風邪の患者さんに、少し長めに出したところ、次ぎの来院時には悪化し気管支炎で、入院寸前ということもありました。他院では、処方が2日の事が多いようですが、当院では3日としています。少しは便宜を計っているつもりですので、理解してください。

治ったら、お薬は止めてよいのでしょうか

病気の状態にもよりますが、一般的には、症状がなくなれば、お薬は必要ありません。しかし病気の状態を判断するのは、なかなか困難ですし、症状が無くなっても続けなければならないお薬もあります。なるべく、お薬が無くなる頃に受診して、指示を仰ぐのが懸命でしょう。逆に、受診のとき、以前のお薬が余っていたので服用していたというも時々ありますが、病気や症状に合わせてお薬は処方されるので、そのような服用の仕方は避けたいものです。次回も薬について考えましょう

編集後記

新年度、入学、入園、おめでとうございます。今年の冬は、余り風邪がはやらなくて、お母さんの心配も、少なかったことでしょう。またまた遅れてしまいました。どなたか何でも結構です。投稿してください。



目次に戻る

前の号

次の号